

29 度 新 エ ネ ロ ボ 第 0 2 2 6 0 0 4 号
平 成 3 0 年 2 月 2 8 日
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
ロ ボ ッ ト ・ A I 部

「次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発」における
知財マネジメント基本方針

日本版バイ・ドール制度の目的（知的財産権の受託者帰属を通じて研究活動を活性化し、その成果を事業活動において効率的に活用すること）及びプロジェクトの目的を達成するため、プロジェクトにおいては、以下の知的財産マネジメントを実施することを原則とする。

本方針に記載のない事項については、プロジェクトの目的を踏まえ、プロジェクト参加者同士の合意により必要に応じて定めるものとする。

プロジェクト参加者は、本方針に従い、原則としてプロジェクト開始（委託契約書の締結）までに、プロジェクトの参加者同士で知的財産の取扱いについて合意するものとする。なお、合意書の作成に当たっては、将来の事業化に向けた研究開発成果の活用を念頭に置くとともに、経済産業省の「委託研究開発における知的財産マネジメントに関する運用ガイドライン」（平成27年5月）を参考にする。

なお、本プロジェクトにおいては、プロジェクトマネージャ（PM）が設置されており、PMは、プロジェクトにおける研究開発の円滑な遂行及びその成果の実用化・事業化を図るため、知的財産の調整等に関わる事項を主導する。

1. 本方針で用いる用語の定義

(1) 発明等

「発明等」とは、発明、考案、意匠の創作、半導体集積回路の回路配置に関する法律（昭和60年法律第43号）第2条第2項に規定する回路配置の創作、種苗法第2条第2項に規定する品種の育成、著作物の創作及び技術情報のうち秘匿することが可能なものであってかつ財産的価値のあるもの（以下「ノウハウ」という。）の案出をいう。

(2) 発明者等

「発明者等」とは、発明等をなした者をいう。

(3) 知的財産権

「知的財産権」とは、特許権、特許を受ける権利、実用新案権、実用新案登録を受ける権利、意匠権、意匠登録を受ける権利、回路配置利用権、回路配置利用権の設定の登録を受ける権利、育成者権、種苗法（平成10年法律第83号）第3条に規定する品種登録を受ける地位及び著作権（著作権法（昭和45年法律第48号）第21条から第28条までに規定する全ての権利を含む）、外国における上記各権利及び地位に相当する権利及び地位並びにノウハウを使用する権利をいう。

（4）プロジェクト、テーマ

「プロジェクト」とは、次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発をいい、「プロジェクト参加者」とは、本プロジェクトの参加者をいう。

また、「テーマ」とは、本プロジェクト内の一又は複数の研究開発テーマであって、一の知的財産の取扱いに関する合意書（知財合意書）を作成するテーマをいい、「テーマ参加者」とは、本テーマの参加者をいう。

（5）フォアグラウンドIP

「フォアグラウンドIP」とは、プロジェクト参加者が、プロジェクトの実施により得た知的財産権をいう。

（6）バックグラウンドIP

「バックグラウンドIP」とは、プロジェクト参加者がプロジェクトの開始前から保有していた知的財産権及びプロジェクトの開始後にプロジェクトの実施とは関係なく取得した知的財産権をいう。

2. 委託契約書において定める事項

（1）日本版バイ・ドール規定（産業技術力強化法第19条）の適用

NEDOは、フォアグラウンドIPについて、研究開発の受託者が産業技術力強化法第19条第1項各号に定める以下の事項を遵守することを条件として、受託者から譲り受けないものとする。

- ・研究開発成果が得られた場合には遅滞なくNEDOに報告すること
- ・国が公共の利益のために必要があるとして求めた場合に、フォアグラウンドIPを無償でNEDOに実施許諾すること
- ・フォアグラウンドIPを相当期間利用していない場合に、国の要請に基づいて第三者に当該フォアグラウンドIPを実施許諾すること

・フォアグラウンド I P の移転等をするときは、合併等による移転の場合を除き、あらかじめ N E D O の承認を受けること

(2) 知的財産権の利用状況調査（バイ・ドール調査）の実施

N E D O は、研究開発成果の有効活用を図るため、受託者に対して、バイ・ドール調査を実施し、知的財産権の利用実態を把握するものとする。

(3) その他の事項

受託者が合併等により、当該委託業務に係る知的財産権の移転が生じる場合は、事前に N E D O に届け出るものとする。

N E D O は、当該受託者が保有するフォアグラウンド I P について、移転等の後においても事業活動において効率的に活用されるか等の観点で検討を行い、サブライセンス権付き通常実施権を要求する等、必要に応じて当該移転等の後におけるフォアグラウンド I P の保有者以外の第三者による実施を確保する。

3. テーマ参加者同士の知財合意書で定める事項

(1) 知的財産マネジメントの実施体制の整備

本方針に従い知的財産マネジメントを適切に実施するため、知財運営委員会又は同機能（「知財運営委員会等」とする。以下同じ。）を設置する。

知財運営委員会等は、研究開発の成果についての権利化、秘匿化、公表等の方針決定、実施許諾に関する調整等を行う。

知財運営委員会等は、テーマリーダー、テーマ参加者の代表者、知的財産の専門家等から構成する。

知財運営委員会等の審議内容、議決方法、構成員その他知財運営委員会の運営に関する事項を定めるため、知財運営委員会運営規則を作成する。

(2) 秘密保持

テーマ参加者は、テーマ参加者が保有する技術情報を他のテーマ参加者に開示する場合における秘密保持のため、必要な手続や対象範囲等をテーマ参加者同士であらかじめ合意するものとする。

(3) 研究開発成果のテーマ外への開示の事前承認

研究開発成果については、知財運営委員会等の承認を得ることなく、テーマ参加者以外の者（別テーマのテーマ参加者を含む。）に対して開示し又は漏洩してはならないものとする。

(4) 発明等の届出及び権利化等方針の決定手続

テーマの実施により発明等をなした場合には、直ちに知財運営委員会等に対し、当該発明等の内容を届け出るものとする。

知財運営委員会等は、届出を受けた発明等について、出願により権利化し又は秘匿する必要があるか否か、出願により権利化する場合にあっては出願対象国等、秘匿する場合にあっては秘匿期間等について審議し、決定するものとする。

なお、知財運営委員会等が研究開発成果を秘匿すると判断した場合においても、NEDOが研究開発の成果の内容を把握するため、秘匿化の是非についてのNEDOとの協議等が必要である。

(5) 研究開発成果の権利化等の方針

研究開発成果を出願により権利化する場合においては、海外においても市場展開が見込まれるのであれば、市場規模等を勘案して権利化が必要と判断される日本以外の国においても権利化することを原則とする。

また、出願による権利化の件数を重視するのではなく、権利化しない選択も考慮するとともに、成果の内容に応じて、秘匿化の要否、論文等による公表の要否を検討する。

(6) フォアグラウンドIPの帰属

フォアグラウンドIPは、発明者等が属するテーマ参加者の職務発明規程等に基づき当該テーマ参加者に承継させるものとする。

発明者等が属する機関にフォアグラウンドIPを保有させても研究開発成果の有効な活用が見込まれない場合、発明者等が属する機関が再委託先であり当該再委託先にフォアグラウンドIPを保有させるとフォアグラウンドIPが分散しかつ事業化に支障が生じると考えられる場合、テーマ参加者が技術研究組合を設立し当該組合が将来組織変更して事業会社となることを想定している場合には、将来の事業化を見据えて適切な者がフォアグラウンドIPを保有するよう、必要な範囲で、発明者等の属する機関以外の者にフォアグラウンドIPの一部又は全部を譲渡することをあらかじめテーマ参加者同士の合意により定める。

(7) 共有するフォアグラウンドIPの実施

テーマ参加者は、他のテーマ参加者と共有するフォアグラウンドIPについて、自由かつ無償にて実施できるものとするを原則とする。

この際、自ら実施できない大学等が共有権者となる場合について、大学等に実施能力がないことを根拠とした補償等の取扱いは、以下のとおりとする。ただし、共有権者間の合意が得られていれば、他の取扱いとすることを妨げない。

- ① 実施前期間においては、原則として、無償とするものとする。
- ② 実施期間中においては、原則として、大学等が第三者への実施許諾を自由に行行使できるのであれば無償とすること、逆に、第三者への実施許諾ができない（共有権者が独占的地位を確保する）場合については、有償とすることについて検討するものとする。

（８）知的財産権の実施許諾

①プロジェクト期間中の実施許諾

テーマ参加者は、自己が保有する知的財産権（フォアグラウンド I P 及びバックグラウンド I P を含む。後記②においても同じ。）について、プロジェクト期間中における他のプロジェクト参加者によるプロジェクト内での研究開発活動に対しては、当該知的財産権を行使しないものとし、プロジェクトの円滑な遂行に協力するものとする。

ただし、プロジェクト参加者同士で有償により実施許諾すること等の別段の取決めがある場合はこの限りでない。

②プロジェクトの成果の事業化のための実施許諾

プロジェクト参加者が、プロジェクトの成果を事業化するために、テーマ参加者が保有する知的財産権について実施許諾を求めた場合、当該テーマ参加者は、事業化に必要な範囲で許諾することを原則とする。

ただし、知的財産権を実施許諾することにより、当該知的財産権の保有者の既存又は将来の事業活動に影響を及ぼすことが予想される場合には、実施許諾を拒否することができるものとする。

実施の範囲、実施料その他の事項について当事者間の協議が難航し、プロジェクトの成果の事業化に支障を及ぼすおそれがある場合は、知財運営委員会等において調整し、合理的な解決を図るものとする。

③別テーマとのプロジェクト期間中の連携

本プロジェクトでは、プロジェクト期間中に別テーマと連携を行う可能性があるため、別テーマと連携する場合の、別テーマのテーマ参加者に対する知的財産権の取扱いについて、本テーマのテーマ参加者同士で合意形成を行い、プロジェクトの円滑な遂行に協力するものとする。

④プロジェクト成果の活用

本プロジェクトでは、フォアグラウンド I P を、テーマ参加者以外の者（別テーマのテーマ参加者を含む。）に実施許諾して活用する可能性や、別の関連するプロジェクトにおいて活用する可能性を想定し、フォアグラウンド I P の保有者自身の事業活動に支障が生じない範囲で、成果の実用化・事業化の促進を妨げないような措置について、テーマ参加者同士で合意形成を行うものとする。

⑤プロジェクト参加者以外の者への実施許諾との関係

テーマ参加者が、保有するフォアグラウンド I P について、他のプロジェクト参加者に実施許諾する場合、プロジェクト参加者以外の者に実施許諾する場合と同等又はそれよりも有利な条件で行うものとする。

（9）フォアグラウンド I P の移転先への義務の承継

テーマ参加者は、フォアグラウンド I P の移転を行うときは、フォアグラウンド I P について課されている実施許諾等に関する義務を移転先に承継させるものとする。

（10）テーマの体制変更への対応

テーマ参加者は、テーマから脱退した場合においても、知財合意書により自己に課された義務を引き続き負うものとする。

また、テーマの体制が変更し、テーマ参加者が追加された場合には、原則として当該テーマ参加者に対しても当初のテーマ参加者と同様の権利・義務を課すものとする。

（11）合意の内容の有効期間

プロジェクトの成果の事業化に支障が生じないようにするため、テーマ期間終了後も含め、必要な範囲で合意の内容についての有効期間を定めるものとする。

（12）合意の内容の見直し

テーマ参加者同士で合意した内容は、当該合意後の事情の変更等に応じて見直すことができるものとする。

4. 未利用成果等の活用促進

NEDO は、プロジェクトによる研究開発成果から得られるアウトカムの最大化を図ることを目的に、第三者への開放が可能な成果（サンプル、知的財産

権等) については、その成果の活用を希望するユーザーとのマッチングによる未利用成果等の活用促進を図るものとする。

また、NEDOは、利活用されていない成果について、バイ・ドール調査等の情報を用いて要因分析等を進めつつ、日本版バイ・ドール規定の趣旨を踏まえた更なる成果促進策について検討を進める。

5. その他

本方針は、次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発の平成30年3月以降に公募を開始したプロジェクトから適用する。